新首相誕生

「野田流」自民は様子見

県関係議員　民主、人事を評価

民主党の野田佳彦代表が衆参両院本会議で新首相に指名された30日、兵庫県関係の他党の国会議員は、未知数の政治手腕や政策方針に警戒感をにじませた。一方、同日決まった民主党役員人事には、県内の同党関係者から「手堅い配置」などと評価する声が上がった。

輿石東参院議員会長の幹事長起用については、小沢一郎元代表の影響を重視したとする見方が大勢を占めた。自民党の西村康稔衆院議員（兵庫9区）は「党内融和を図るつもりだろうが、にっちもさっちもいかなくなるのでは」と分析。公明党の赤松正雄衆院議員（比例近畿）は「民主党にとって吉と出るか、凶と出るか見もの」と語った。

野田新首相が視野に入れているとする「大連立」の可能性に関し、野党議員は一様に否定。自民党の谷公一衆院議員（比例近畿）は、震災復興関連には協力を惜しまないとしたが、「大連立は無理だし、すべきでない。政策合意がなければ野合になる」とする。同党の末松信介参院議員（兵庫選挙区）は「野田さんは派手さはないが、実直な雰囲気もある難敵」と警戒感をあらわにした。

与党の国民新党と統一会派を組む新党日本代表の田中康夫衆院議員（兵庫8区）は「野田さんは安定感のある政治家だと思ってきた。連立合意に基づき、協力していく」と述べるにとどめた。

一方、民主党兵庫県連副代表の前島浩一神戸市議は、輿石氏の幹事長起用に「今回こそ挙党一致でいこう、という強い思いが表れている。小沢元代表にも物が言え、手堅い人事」と話した。同県連幹事長の藤井訓博県議は「党内融和を最優先した人事。（輿石氏は）政治手腕は申し分なく、ねじれの元凶の参院に強い影響力がある」と評価。その半面、「小沢色と高ほしかった」とした。

齢が不安材料。若手の幹事長起用などの大胆さが（藤原　学、山崎史記子、高見雄樹）